

校長室だより

日本福祉大学附属高校 2017年3月1日

万人の福祉のために

真実と慈愛と献身を



卒業式と送る会 卒業生「3年間の学び」発表

2月28日(火)第57回卒業式が神谷美浜町長、山本教育長始め美浜・南知多・武豊の各中学の校長先生や理事長、学園長、学長など学園関係者のご出席をいただき挙行されました。一部(卒業証書授与式)は卒業証書授与・校長式辞・来賓祝辞などに続き、卒業生3名が、決意の言葉を述べました。第二部(卒業生を送る会)は、思い出のスライドや2年生による合唱、教員合唱と代表の贈る言葉、卒業生による「3年間の学びの発表」が合唱と構成詩でありました。平日にもかかわらず多数の保護者のご出席をいただきました。ありがとうございました。



(校長式辞より) 抜粋

・・・私がこの学年を見て感じるのは、皆さんが特に文化祭のとりくみに力を入れたことです。この学年は1年時から展示でいくつもの学級が上位を独占するなどの成果を収めた学年でした。その陰にはきっと学級や学年の議長団での時間をかけた話し合いや粘り強いとりくみがあったことと思います。ある人は「私は高校に入るまで人前に出ることがすごく苦手でしたが、高校で学級の議長や学年議長団をするうちに周りを見て、行動できるようになったり、意見をまとめることが得意になりました」またある人は「私が代議員を務めることができたのはクラスメイトの支えがあったからです。みんなが嫌な顔一つせず話を聞いてくれて自分に自信と責任感が生まれました」と語っています。このように仲間を信頼し、協力し合う学年集団に成長してくれたことを私は大変うれしく思います。

勉強について、多くの人が思いを語っています。「中学の時数学が苦手だったが、高校に入りとても数学が楽しくなった」「中学生の時より真面目に勉強にとりくむようになった。何より『やればできる』という自信につながった」などです。ぜひ1、2年生の人たちも参考にしてもらいたいと思います。

高校生活のもう一つの柱である部活動については、結果の有無にかかわらず、どの部も活動を通じて多くのことを学んでいます。「和太鼓部で協調性、忍耐力、仲間を思いやる気持ち、いつも周りへの気配り、基本中の基本である挨拶などたくさんを学んだ」「野球部で挨拶、礼儀、人のかかわり方など中学では学べなかった所まで学ぶことができ、人として成長できた」「マネージャーをする中でコミュニケーションをとることの大切さを学んだ」「バス部でキャプテンを務めることになり、4番を背負う事の重さ、上に立つことの難しさを学んだ。支えてくれた家族にも感謝している」「吹奏楽部の3年間は一つの音楽を全員で創り上げていく充実感と、小さなことを積み上げていった後の達成感、そして何よりも仲間の大切さを部員として、部長として学び、実感することのできた時間となった」「演劇部最後の夏に県大会を逃して悔しかったが、アートフェスタにわざわざ自分たちの芝居を観に来てくれたお客さんがいたことにうれしくて泣きそうになった。上位の大会に出場することがすべてではなく、お客さんに見て楽しんでもらえることが幸せなんだと気づけた」など、とても素敵な気づきや学びがあったことがわかります。

修学旅行やイギリス・オーストラリアの語学研修などを通じて、多くのことを学んでいます。しかもそれらで培った力が自分に自信をつけ、将来の進路を決めるヒントや今後の生きる指針を得た人がいます。

「バレー部の部活動の経験を活かし、夢ができた。高校の体育教員になること。体育教員になって生徒にスポーツする楽しさを教えたい」「高校で英検や数検を受けて自分に自信がついた。将来私は看護師になって、日本で何年か働いたあと、海外で働きたい」「修学旅行で沖縄の人々から多くのことを教わった。安里さんから聞いた話を今度は自分たちが次の世代へ伝え引き継ぐのです。」「イギリスの語学研修に参加したことで将来、自分が何をやりたいのか改めて考えることができたし、国際関係の仕事に就きたいと強く思うようになった。この経験を生かして絶対に夢を叶えたいです」このように皆さんが強たくたくましく自分を成長させ、将来の生き方のヒントを見つけています。・・・

卒業生代表の言葉 (抜粋)

○野球部で過ごした時間は私にとって特別なものになりました。時には部員と衝突したり、思うような活動ができなかったりと大変な時期もありましたが、それでも私が頑張ることができたのは野球部がとても好きだからです。今ではあのメンバーだったからこそ、最後までやり切ることができたのだと思っています。……高校卒業後、私は理学療法士になる夢を叶えるために大学へ進学します。3年間の経験を活かして、私が助けてもらったように多くの人を支えられる理学療法士を目指して、これからも努力し続けていきたいです。きっと大学でもうまくいかず悩む場面があると思いますが、一つひとつ乗り越えていき、たくさんの人を助けられる強い人間になれるよう、困難にも立ち向かっていきたいと思っています。(Ku さん)

○「この学校で社会福祉の基礎を学び、医療ソーシャルワーカーになるのが私の将来の夢です。」3年前の入学式の時、私がこの舞台上で言った言葉です。当時の私はただ漠然とMSWになりたいとしか考えていませんでした。しかしこの3年間でどんなMSWになりたいのか、具体的な姿を抱くことができました。今の私の夢は「苦しみを抱える人の声なき声に耳を傾け、正面から向き合い、相手に寄り添うことができるMSWになること」です。この夢を抱くことができたのは、自分の学んできた福祉の基礎だけではありません。いつも周りで支えてくれた仲間、両親、先輩や先輩の存在があったからです。私は3年間和太鼓部に所属し、副部長を経験しました。充実感もありましたが、不安も多くミスもしました。そんな時、面と向かって私の改善点を的確に指摘して注意してくれたり、欠かさずフォローの言葉をかけてくれたのは同期の仲間でした。この声掛けに支えられて私は副部長をやり遂げることができました。……(Ka さん)

○この付属高校で過ごした時間は、私に仲間の大切さ、真剣にとりくむことの大切さを教えてくれました。代議員、学年議長団議長、生徒会執行部の活動を経験して、自分一人だけの力ではどうにもならないことも、仲間と協力し合うことで乗り越えていける、そして常に誰かに支えてもらっているという感謝の気持ちなどにも気づくことができました。行事や日々の学校生活のあり方を、常に生徒主体で考え、企画し行動することができる日本福祉大学付属高校であったからこそできた、貴重な経験であったと思います。

また、名古屋大学などが主催する「高校生防災フォーラム」に、学校代表として参加させていただいたことも私の進路選択に大きく影響しました。この活動では、いつ起こるかわからない災害を恐れるのではなく、災害に立ち向かう準備をすること。災害という非日常をすべての人が“自分に関係すること”と捉え、実際に行動を起こしていくためには何が必要かをテーマに、調査研究・開発研究に取り組みました。この活動を通じて、地域社会と高校生、大学生がつながる環境づくりの必要性を感じ、自分の学びの幅が大きく広がりました。またこのような自分たちの活動が、社会をより良くするためのきっかけにもなるということ、身をもって実感したことで、18歳選挙の最初の学年であることにも責任感が増しました。私はこれら「防災や地域連携」を、進学先の大学で学ぶテーマにしたいと考えています。(Ka 君)

*いずれも素敵な発表でした。夢の実現に向けて頑張ってください。(校長)

次は1, 2年生の番、明日から学年末試験 頑張ろう!